

# 日本政治学会 会報

The JPSA News

No.49

JUN.2005

## 2005年度 研究会企画について

企画委員長 久米 郁男

2005年度の政治学会は、10月1、2日の両日にわたって明治大学で開催されます。今年度の企画委員会は、研究会へのより開かれた参加を目指して、従来から進められてきた公募方式の一層の拡充を図ることとしました。そのため、分科会及び単独報告の公募に加えて、企画委員会が計画する分科会についても、昨年10月に学会ホームページ上に各分科会の趣旨を公開し、それら分科会報告者も募集するとともに、ポスター・セッションを新設し発表者を募集しました。その結果、多数の応募を頂き、共通論題1、分科会21、及びポスター・セッションの合計23のセッションを設けることが出来ました。

今年度のもう一つの新しい試みは、共通論題を一つに絞り第2日目の午後に設定したことです。分科会を出来るだけ多く設けて参加を拡充するとともに、第2日目の最後まで多くの会員の方に参加してもらうためです。

共通論題のテーマは「イラク戦争の政治学」です。イラク戦争自体については、政治学会の会員を含む多くの政治学者が様々に論じておられるところですが、共通論題では、イラク戦争という「事件」が政治学に対してどのような問いかけをしているのか、政治学はイラク戦争理解にどのように貢献しうるのか、という観点から、戦争自体の分析と言うよりは、それが政治学の諸分野に与えたあるいは与えるインパクトを議論することを目指します。国際政治、地域研究、比較政治、政治思想の分野から報告者をお願いして、ラウンドテーブルの形式で自由に討論してもらうことにしています。

以下分科会について簡単にあらましを紹介します。

政治思想系の分科会は、政治思想家の制度論を考察するA「制度設計の政治思想」、戦争を可能にしてきた思想的根拠を再検討するB「聖戦・正

戦・清戦—戦争の政治思想史」です。

政治史系の分科会は、E「1960年代の内政と外交」(公募) O「日本の政官関係の変容—歴史学・政治学のアプローチから—」があります。

比較政治関係の分科会は、EU加盟国における「ヨーロッパ化」の政治の特質を検討するG「ヨーロッパ化(Europeanization)の政治」、H「アメリカの政治と宗教」、台湾・韓国を取り上げるJ「民主化以降の民主主義」、P「中国政治の内部構造」があります。

国際関係については、拡大したEUにつき、そのガバナンスと国際関係の両側面を検討するF「世界政治におけるEU」、選挙研究ではC「2004年参院選の総括」と公募企画のS「選挙制度改革の実証的評価」があります。

方法論に関心を置く分科会としては、L「政策史と制度史の射程」、M「計量政治分析の新地平—質的分析との対話を求めて」、N「数理モデルの可能性」、Q「政治経済学の可能性」があります。

近年関心の高まっているテーマとして、D「社会保障・福祉政策の政治学分析」、I「アカウンタビリティ研究の理論と実証：ヨーロッパを中心に」、K「改革派首長の登場とその政治手法」を設けました。また、3つ目の公募企画としてR「政治と言語」があります。

国際交流関係では、例年通り、アメリカ政治学会との交流セッション、韓国政治学会との交流セッションが設けられます。これに加えて、初めての試みのポスター・セッションでは、10本の発表が予定されています。

まだ、詳細未定のものもありますが、まもなくお手元にご案内をお届けいたします。皆様には、秋の研究大会へ奮って御参加下さいますようお願い申し上げます。

## 2005年度日本政治学会研究会プログラム

### 共通論題「イラク戦争の政治学」(ラウンドテーブル)

恒川恵市 (東京大学) ・ 中西寛 (京都大学) ・  
押村高 (青山学院大学) ・ 池内恵 (国際日本文化研究センター)

司会：田中明彦 (東京大学)

### A 「制度設計の政治思想」

梅田百合香 (金城学院大学) 「国家教会体制論としての『リヴァイアサン』—政治と宗教の対立に対するホップズの解決策—」

犬塚元 (日本学術振興会特別研究員) 「デイヴィッド・ヒュームの制度設計：政治対立の制度化」

田中拓道 (北海道大学) 「フランス福祉国家の形成と変容—「社会的連帯」の概念史から—」

討論：大澤麦 (聖学院大学) ・ 安武真隆 (関西大学)

司会：佐藤正志 (早稲田大学)

### B 「聖戦・正戦・清戦——戦争の政治思想史」

山内進 (一橋大学) 「西洋の正戦論における人文主義的伝統 (仮)」

太田義器 (摂南大学) 「西洋正戦思想史への批判的視座 (仮)」

中山俊宏 (日本国際問題研究所) 「米国における介入論をめぐる座標軸：イラク戦争とリベラル・インターベンショニストの動向を中心に」

討論：荏部直 (東京大学)

討論兼司会：池田明史 (東洋英和女学院大学)

### C 「2004年参院選の総括」

小林良彰 (慶應義塾大学) 「2004年参院選における有権者意識とその変容」

岡本哲和 (関西大学) 「2004年参院選における候補者ウェブサイトの数量分析—Politics as Usual?」

菅原琢 (日本学術振興会特別研究員：東京大学) 「2004年参議院選挙に見る自民党の得票構造とその変動」

討論：平野浩 (学習院大学)

司会：谷聖美 (岡山大学)

### D 「社会保障・福祉政策の政治学分析」

西山隆行 (甲南大学) 「アメリカの福祉国家再編と『新しいパターンリズム』」

山岸敬和 (ジョージタウン大学Ph.D.Candidate) 「歴史的制度論と戦争という変数—第二次世界大戦中の日米の健康保険制度発展を事例に」

佐々木寿美 (平成国際大学) 「高齢者福祉をめぐる政策過程研究」

討論：加藤淳子 (東京大学) ・ 上村泰裕 (法政大学)

司会：三浦まり (上智大学)

### E 「1960年代の内政と外交」

村井良太 (駒澤大学) 「政党システムの変容—社会開発論を中心に」

中島信吾 (防衛研究所) 「高度成長期の防衛政策と日米関係」

宮崎正康 (東洋英和女学院大学) ・ 宇野 (有田)

富美子 (東洋英和女学院大学) 「未定」

討論：雨宮昭一 (茨城大学) ・ 稲継裕昭 (大阪市立大学)

司会：福永文夫 (獨協大学)

### F 「世界政治におけるEU」

遠藤乾 (北海道大学) 「EU=NATO=CE体制の終焉?—欧州統合研究の再検討」

戸澤英典 (大阪大学) 「パン・ヨーロッパ構想の起源—クーデンホフ=カエレルギーと拡大ヨーロッパの展開」

討論：(未定)

司会：細谷雄一 (慶應義塾大学)

### G 「ヨーロッパ化 (Europeanization) の政治」

網谷龍介 (神戸大学) 「政党政治・国家構造・国内規範?—反差別指令の国内立法化の独逸比較—」

吉田徹 (東京大学大学院博士課程) 「ヨーロッパ『浸入』による機会構造変化—フランスの公共政策を事例に」

討論: 近藤康史 (筑波大学)

司会: 平島健司 (東京大学)

## H 「アメリカの政治と宗教」

森孝一 (同志社大学) 「キリスト教原理主義とは何か」

上坂昇 (桜美林大学) 「共和党右派と宗教勢力」

討論: 蓮見博昭 (恵泉女学園大学)

司会: 村田晃嗣 (同志社大学)

## I 「アカウンタビリティ研究の理論と実証」

福田耕治 (早稲田大学) 「アカウンタビリティと正統性: EUと日本の腐敗防止ガバナンス」

山岡龍一 (放送大学) 「政治におけるアカウンタビリティ: 政治理論の立場から」

白鳥浩 (法政大学) 「国際・国家・共同体: アカウンタビリティに関する一考察」

討論: 森政稔 (東京大学) ・大黒太郎 (福島大学)

司会: 眞柄秀子 (早稲田大学)

## J 「民主化以降の民主主義」

小笠原欣幸 (東京外国語大学) 「民主化後の台湾—エスニシティ政治の危ういバランス」

浅羽祐樹 (ソウル大学校研究員) 「小選挙区比例代表並立制の政党システムにおける異なる帰結: 地域内のリンケージ、地域間のリンケージ、そして韓国における地域主義」

討論者: 藤原帰一 (東京大学) ・増山幹高 (成蹊大学)

討論者: 藤原帰一 (東京大学) ・増山幹高 (成蹊大学)

司会: 大西裕 (大阪市立大学)

## K 「改革派首長の登場とその政治手法」

打越綾子 (成城大学) 「未定」

北村亘 (甲南大学) 「未定」

三田妃路佳 (慶應義塾大学大学院博士課程)

「公共事業改革における改革派知事の役割」

討論: 伊藤修一郎 (筑波大学) ・石上泰州 (平成国際大学)

司会: 河村和徳 (東北大学)

## L 「政策史と制度史の射程」

鈴木一人 (筑波大学) 「未定」

伊藤正次 (東京都立大学) 「未定」

討論: 岡山裕 (東京大学)

司会: 牧原出 (東北大学)

## M 「計量政治分析の新地平——質的分析との対話を求めて」

若山将実 (中央大学大学院博士課程) 「造反から離党へ: 1980年代イギリス労働党議員の離党現象の分析」

間寧 (アジア経済研究所) 「トルコにおける投票流動性: 亀裂と懲罰」

富崎隆 (駒澤大学) 「『国家』概念の再検討と計量的アプローチ—実証的国家概念の提出 (国家性強度‘stateness’指標化) 及び国家性強度に基づくマクロ政治学的分析の可能性について—」

討論: 木村幹 (神戸大学) ・福元健太郎 (学習院大学)

司会: 待鳥聡史 (京都大学)

## N 「数理モデルの可能性」

曾我謙悟 (大阪大学) 「官僚制研究におけるゲーム理論・数理モデルの展開」

松田憲忠 (北九州市立大学) 「政策変化に関するゲーム理論的分析枠組」

高橋一行 (明治大学) 「どのような数理モデルが政治学に使えるか」

討論: 鈴木基史 (京都大学)

司会: 山田真裕 (関西学院大学)

## O 「日本の政官関係の変容—歴史学・政治学のアプローチから—」

奈良岡聡智 (京都大学) 「政務次官制度設置の政治過程」 (仮題)

清水唯一郎 (東京大学) 「近代日本における政党の質的変容—政務次官制度を通じて」

武藤桂一 (行政管理研究センター) 「政務次官から副大臣へ」

討論者: 川人貞史 (東北大学) ・毛利透 (京都大学)

司会: 升味準之輔 (東京都立大学)

## P 「中国政治の内部構造」

辻中豊 (筑波大学) 「比較のなかの中国「市民社会」組織—市民社会組織調査 (JIGS) 8 カ国国際比較に基づいて」

平野聡 (東京大学) 「未定」

滝田豪 (大阪国際大学) 「農村の政治から見る現代中国の国家 (仮)」

討論者: 下斗米伸夫 (法政大学)、川島真 (北海道大学)

司会: (未定)

## Q 「政治経済学の可能性」(ラウンドテーブル)

新川敏光 (京都大学) ・河野勝 (早稲田大学) ・西澤由隆 (同志社大学) ・建林正彦 (神戸大学)

司会: 久米郁男 (早稲田大学)

## R 「政治と言語」

法貴良一 (作新学院大学) 「政治の言語的構成」

川野徳幸 (広島大学) 「失言と放言の政治過程」

松永信一 (摂南大学) 「暗殺と政治システム」

討論: 茨城正治 (東京情報大学)

司会: 永森誠一 (國學院大学)

## S 「選挙制度改革の実証的評価—「選挙制度不均一仮説」と政策対抗的な政党制の条件」

堀内勇作 (オーストラリア国立大学) ・名取良太 (関西大学) 「国と地方の選挙制度の均一性の効果—市区町村データによる検証」

前田幸男 (東京都立大学) 「選挙制度の不均一性と有権者の投票行動」

堤英敬 (香川大学) 「2003年総選挙における候補者レベル公約と政党の利益集約機能」

討論者: 上神貴佳 (東京大学)

司会者: 樋渡展洋 (東京大学)

## T アメリカ政治学会交流セッション (国際交流委員会)

「民主主義の将来とアカウンタビリティの概念」

The Future of Democracy and the Concept of

Accountability

司会: 千葉真 (国際基督教大学)

Philippe C. Schmitter (University of Europe) “The Future of Democracy in Europe”

Miriam Golden (UCLA) “Political Corruption in Modern Advanced Democracies”

T. J. Pempel (UC Berkeley) “Regionalizing the Developmental State: Political and Economic Accountability in East Asia”

討論: 井戸正伸 (駒沢大学)

## U 韓国政治学会交流セッション (未定)

### V ポスターセッション

1: 鈴木崇史 (東京大学大学院博士課程) 「規範の存在構造」

2: 菅原光 (日本学術振興会特別研究員 (東京大学)) 「西周の「軍人社会」論」

3: 宮本悟 (神戸大学大学院博士課程) 「政軍関係理論の再考察」

4: 長谷直哉 (慶應義塾大学大学院博士) 「ロシア連邦制の政治分析」

5: 大川公一 (富山国際大学) 「市町村合併と新市選挙の動向」

6: 徳久恭子 (大阪市立大学研究生) 「繰り返される攻防—義務教育費国庫負担をめぐる政治過程」

7: 西野純也 (延世大学博士課程) 「韓国における『日本型』経済政策の形成に関する研究: 1960~70年代を中心に」

8: 坂本治也 (大阪大学大学院博士課程) 「ソーシャル・キャピタルは民主主義を機能させるのか?—日本の地方ガバナンスと市民社会の計量分析—」

9: 北川将之 (上智大学) 「近代化のなかのインド村民の政治態度—カルナータカ州バンガロール農村県を事例に」

10: 三船毅 (愛知学泉大学) 「投票参加の低下—90年代の投票率低下の説明—」

## 学会事務委託のお知らせ

理事長の3月30日付け書簡で会員の皆様にお知らせしたように、このたび(株)アドスリーに学会事務の一部を委託いたしました。アドスリーは会費請求、会員データの更新、年報・ニュースレターの発送等を請け負います。つきましては、住所変更等の届け出および会費に関するお問い合わせは、(株)アドスリーのほうにお願いします。

〒164-0003 東京都中野区東中野4-27-37

(株)アドスリー 日本政治学会担当係宛

TEL：03-5925-2840 FAX：03-5925-2913

E-mail jpsa@adthree.com

担当者 石井

営業時間 土、日曜、祭日を除く毎日

9：30～18：30

入会・退会の申し込みと、アドスリーが担当する事項以外の諸々のお問い合わせは、これまで通り学会事務局のほうにお願いします。

## 『年報政治学』年2回刊行化および2005年度第2号論文公募のお知らせ

この度、日本政治学会が年1回刊行してきた『年報政治学』を年2回刊行することになり、これまでより会員の方の投稿論文を掲載する機会が増えることになりました。これに伴い、既に3月末の書信および学会HPにてご案内しております通り、『年報政治学』2005年度第2号(2006年3月刊行予定)への投稿論文を募集しております。

- 1 応募資格：日本政治学会の会員であり、これまでに会費を全て納入している方。
- 2 原稿の主題：政治学全般に関連する実証的・理論的・方法的・歴史的・規範的などのアプローチによる論文で、未発表のものに限ります。
- 3 使用できる言語：日本語に限ります。
- 4 原稿の分量：20,000字以内(注、参考文献、図表を含む)とします。
- 5 論文提出期限：2005年6月30日(木)必着で御願います。
- 6 投稿の方法：電子ファイル形式(ウィンドウズ版のワードまたは一太郎とし、マック版は

## 2005年度年報委員長 小林 良彰

ウィンドウズ版に変換したものに限り)で保存し、本『年報政治学』編集委員会の投稿専用の電子メールアドレス(ykobayas@hs.catv.ne.jp)宛てに、メールの添付ファイルとして送信して下さい。投稿メールの件名(Subject)には、「年報政治学投稿論文の送付」と記入して下さい。なお、別紙の申込用紙に記入の上、投稿論文と共にメールに添付して送付して下さい。また、投稿メールの本文および、申込用紙、投稿論文を、別に1部プリントアウト(A4用紙に片面印刷)して、本『年報政治学』編集委員会宛てに郵送等で送付(〒108-8345 東京都港区三田2-15-45慶應義塾大学法学部『年報政治学』編集委員会 小林良彰宛)して下さい(締切り日必着)。

- 7 査読と採択：投稿論文の掲載の可否は、年報編集委員会が委嘱する編集委員以外の匿名のレフリーによる査読結果を踏まえて、編集委員会が決定し執筆者に電子メールで結果を連絡します。

## 『年報政治学』2006年度第1号論文公募について

『年報政治学』2006年度第1号(2006年10月刊行予定、山口二郎年報委員長)も論文を公募しています。原稿の締切は2005年9月30日必着です。

詳細はニューズレター第48号、または学会ホームページ(URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jpsa2/>)をご覧ください。

## 2006年世界政治学会・福岡大会へのご協力をお願い

2006年世界政治学会・福岡大会組織委員会  
委員長 佐々木 毅  
五百旗頭 真  
執行委員長 渡 辺 浩

ご承知の通り、第20回世界政治学会大会が、2006年7月9日から13日まで、日本政治学会の主権により、福岡国際会議場において開催されます(2006年度日本政治学会総会・研究会も同時開催)。日本政治学会理事会および大会組織委員会では、福岡県・福岡市をはじめ、各方面に協力を求めて資金の確保に努めておりますが、本会会員の皆様にも、日本でこの大会を成功させることの重要性をご理解いただき、募金にご協力をお願いしております。

昨年末に募金の受け付けを開始した後、早速以下の皆様から2,885,694円のご寄付を頂戴しました。この場を借りて御礼申し上げます。

杉田敦、谷口将紀、猪口孝、原千砂子、渡辺浩、小西秀樹、升信夫、早川誠、末内啓子、半澤孝麿、伊藤修一郎、大山耕輔、平石直昭、柏谷泰隆、安井宏樹、桐山昇、大津留智恵子、大谷明夫、江上能義、山本隆基、田中収、木原滋哉、小池治、藤原孝、五十嵐仁、山口裕司、福田歎一、西川伸一、谷聖美、大澤麦、水谷利亮、恒川恵市、西澤由隆、Guthmann, Thierry、鈴木宜創、品田裕、山口定、松浦正孝、谷口尚子、神江伸介、中西寛、升味準之輔、山田辰雄、松本三之介、水島治郎、遠藤美奈、渡辺容一郎、井竿富雄、矢田部順二、大八木時広、酒井哲哉、稲継裕昭、福島新吾、永森誠一、梶島洋美、小林真理、吉瀬征輔、大西裕、倉頭甫明、中郵章、早瀬武、

堤林剣、平野健一郎、田中節男、高木彰彦、河村和徳、酒井正文、三谷太一郎、吉野孝、笠京子、千葉真、佐々木春夫、安西敏三、岩井奉信、小林良彰、星野昭吉、岡田浩、坂本孝治郎、大串和雄、中谷毅、河田潤一、福元健太郎、伊藤彌彦、鈴木一人、大六野耕作、小野耕二、渡辺博明、坂口正治、市川喜崇、有賀弘、阪野智一、和田修一、村松岐夫、山田真裕、今井清一、内田満、竹森正孝、田中治男、加茂利男、斎藤純一、川人貞史、佐々木毅、古城佳子、久米郁男、田中俊郎、山口二郎、西東克介、平井一臣、宇野重規、坪郷實、鈴木礼暁、平野聡、安部博純、野田昌吾、馬場康雄、飯尾潤、本田弘、辻中豊、近藤邦康、藪野祐三、埜村紳二、木村朗、山田光矢、曾根泰教、鈴木宜則、大中一彌、外山公美、岩濑美克、土川信男、土居充夫、河越真帆、杉本稔、湯浅壱道、竹中千春、大嶽秀夫、蒲島郁夫、小林幸夫、宮崎隆次

(2005年4月28日まで、順不同・敬称略)

組織委員会では、引き続き皆様からの寄付を受け付けております。ご寄付は、1口1000円で、大学院生3口～、講師・助教授5口～、教授(49歳以下)7口～、教授(50歳以上)10口～、本会理事経験者・福岡大会組織委員30口～を目安に、下記郵便貯金口座にご送金いただけますと幸いです。同封の振替用紙をご利用下さい。振込にあつては、お名前・ご住所を明記くださるようお願い

致します。

加入者 2006年世界政治学会  
・福岡大会組織委員会  
口座番号 00100-8-777649

上記口座は、世界政治学会福岡大会の寄付受付専用です。日本政治学会年会費等のお支払いには

ご利用になれませんのでご注意ください。

1982年の世界政治学会・東京ラウンドテーブル（3年毎の世界大会の中間に行われる研究集会）開催時には、日本政治学会会員による募金総額は574万円に上ったと記録されております（田口富久治『戦後日本政治学史』400頁）。会員の皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

## 日本政治学会 2004年度第6回理事会記録

日時：2004年12月18日（土）14時00分～15時30分  
場所：東京大学社会科学研究所大会議室

第6回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

### 1. 幹事の選任について

渡辺理事長より、事務局業務の繁忙に伴い、宇野重規会員（東京大学）を幹事として追加選任したい旨諮られ、了承された。

### 2. 事務局報告

#### (1) 2004年度年報の定価について

大串常務理事より、学会事務センター破産に伴う研究成果公開緊急補助として公募がなされた文部科学省科学研究費については、前事務局が応募したものの選に漏れた旨報告がなされた。また、2004年度年報政治学の定価について岩波書店と値下げ交渉を進めた結果、予価3800円を3400円とすることで合意し、岩波書店の計算では学会にとって約60万円の負担減となる旨報告がなされた。

#### (2) 2006年度研究会事務の(株)日本旅行への委託について

大串常務理事より、福岡で開催される2006年の研究会には開催校が存在しないため、IPSA世界大会開催準備を依頼している(株)日本旅行に、開催校が通常執り行う事務作業を委託したい、また、具体的交渉を蒲島理事に依頼したい、さらに日本旅行との交渉次第では一定の金額を日本政治学会が負担することになる旨（その代わり、例年

のような開催校に対する支出はない旨）報告がなされた。また、現在開催校マニュアルの改訂作業を進めており、整い次第蒲島理事に渡して、それを基に日本旅行側と検討に入る旨報告がなされた。

#### (3) 日本学術会議会員候補に関する情報提供について

渡辺理事長より、当該候補の情報を8名分提供されたいとの依頼に対し、本来ならば理事会での検討を経た上で回答すべきところ、回答締切との関係でやむをえず事務局にて検討し、結局、石川・稲継・岩本・大串・小野・河田・小林・竹中の各理事（五十音順）を候補者として情報提供した旨報告がなされ、了承された。

#### (4) 学会事務センターの債権者会議について

渡辺理事長より、11月29日に東京地方裁判所で開催された(株)学会事務センター破産債権者集会で、破産管財人団から以下の説明があった旨報告がなされた。

a) 諸学会が喪失した金額は実質11億円余りであるが、学会預かり金は一般債権に分類されて優先順位が低いため、各学会が喪失分を回収することはほとんど見込めない。一部の元理事が私財を提供する意思を表明しているが、その取り扱いにつき2005年早々に諸学会全体の統一見解を示して欲しい。

b) 元理事の刑事責任については、告訴について警察と相談するかどうかなお検討中である。

以上を踏まえて渡辺理事長より、今後の対応については事務局に一任されたい旨述べられ、了承された。

### 3. 各委員会報告

#### (1) 2005年度企画委員会

久米郁男委員長より、現在ニューズレター及びホームページで2005年度研究会の分科会テーマを募集中であること、および開催校の明治大学では部屋増への対応は可能であり、その分の部屋代は企画委員会予算から支出する旨報告がなされた。また、牛山久仁彦会員を企画委員として新たに加えること、共通論題は「イラク戦争の政治学」とすること、手薄なアジア政治に関する企画を充実させるため高原明生会員に中国関連の分科会を実現できないか依頼した旨報告がなされ、了承された。

#### (2) 2006年度企画委員会

竹中千春委員長（大串常務理事代読）より、2006年度研究会はIPSA福岡大会のテーマ「Is Democracy Working?」と関連づけたものにし、午前は思想や政治体制分析などを含む一般的テーマ、午後はアジアと日本を中心とした国際政治に重点をおいてセッションを設定すべく、具体的な人選を進めている旨報告がなされた。

#### (3) 2004年度年報委員会

御厨貴委員長（大串常務理事代読）より、2004年度年報は、当初の予定より少々遅れて2005年1月に刊行のはこびである旨報告がなされた。

#### (4) 2005年度年報委員会

小林良彰委員長より、一般公募論文については既に査読を進めて3本の収録の可能性があり、これに特集として7本を加えて計10本の論文を収録し、最終締切は2005年夏に設定して予定通り刊行したい旨報告がなされた。

#### (5) 2006年度年報委員会

山口二郎委員長（大串常務理事代読）より、特集を「平等と政治」として年明け以後研究会を開催し、執筆に向けた方向付けを行う旨報告がな

れた。

#### (6) 2005年度文献委員会

杉本稔委員長より、間もなく刊行されるニューズレターにおいて、2004年中の会員の業績について自己申告をお願いしている旨報告がなされた。

#### (7) 国際交流委員会について

千葉眞委員長（大串常務理事代読）より、去る12月初旬に開催された韓国政治学会研究会に、公募をうけて松田宏一郎会員（立教大学）及び内山融会員（東京大学）を派遣し、渡辺理事長の挨拶文が代読されたこと、および2005年度アメリカ政治学会年次大会に、公募をうけて越智敏夫会員（新潟国際情報大学）及び押村高会員（青山学院大学）を派遣することを決定した旨報告がなされた。

### 4. 学会事務委託先について

宇野重規幹事より、事務局による委託先候補選定作業の概略に関する報告がなされた。当初リストアップした23社について、学会事務の実績、経営の安定性等を考慮して検討した結果、9社に絞り込み、さらに見積書の比較や面談によって最終候補の検討作業を行っている旨説明がなされた。以上をうけて各社に関する質疑応答がなされ、次回理事会で引き続き審議することとした。

### 5. 学会ジャーナル改革について

小野耕二学会ジャーナル改革検討委員長より、現在の日本政治学会の規模に照らせば年複数回の刊行（当年度2回）とすることが望ましく、かつ会費を据え置いたうえで刊行回数を増やすことが会員サービスの向上にもつながるため、出版社との関係を調整する必要がある旨の最終報告がなされ、審議の結果、年2回刊行への移行を目指すことを決定した。年2回刊行の具体的方式等に関しては今後事務局で検討することとした。

### 6. メーリングリストの構築について

大串常務理事より、最近IPSAからMonthly Electronic Newsletterを日本政治学会会員向けに配信したいという趣旨の連絡を受けた旨報告が



なされ、従来日本政治学会ではそのようなメールサービスを行って来なかったため、これを機に会員サービス向上策の一環として、希望する会員に向けて同Newsletterを含め事務局から発信するメーリングリストを構築したい旨提案がなされ、承認された。

## 7. 入会承認について

以下の各氏を新入会員として承認した（事務局

受付順、敬称略）

若山将実・久保栄比幸・清滝仁志・下村太一・  
渡羽祐樹・上谷修一郎・高山裕二・高橋洋

## 8. 次回理事会について

渡辺理事長より、次回理事会は2005年3月19日（土）、東京にて開催したい旨諮られ、承認された。

## 日本政治学会 2004年度第7回理事会記録

日時：2005年3月19日（土）14時00分～15時50分  
場所：東京大学法学部研究室203号室

出席者（五十音順・敬称略）

稲継裕昭・石川捷治・牛山久仁彦（開催校・中  
郵章代理）・江上能義（監事）・大串和雄・小野  
耕二・加藤秀治郎・蒲島郁夫・河田潤一・川人貞  
史・久米郁男・古城佳子・小林良彰・杉田敦・杉  
本稔・竹中千春・田中愛治・谷聖美・辻中豊・平  
井一臣・福永文夫（監事）・藤本一美・藤原孝・  
笠京子・渡辺浩

幹事：宇野重規・平野聡

欠席者

飯島昇藏・岩本美砂子・大嶽秀夫・加藤節・北  
岡伸一・田中俊郎・千葉眞・西澤由隆・西村茂・  
藤井徳行・藪野祐三・山口二郎・李鍾元

第7回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

### 1. 事務局報告

#### (1) 学会事務センター破産問題について

大串常務理事より、さる3月7日に学会事務センター債権者集会が開催され、破産管財人より破産処理の状況として、破産時点での財産である5億4504万3367円は公租公課と優先債権ならびに破産処理の人件費等に費やされ、諸学会が有する一般債権には配当されないこと、および元理事から和解金として5650万円が預託された旨説明があつ

たとの報告がなされた。また、昨年12月に発足した和解交渉委員会から各学会に対し、元理事との和解交渉の諾否ならびに和解金の分配方法に関するアンケートが配布され、日本政治学会としては「和解に応じ、かつ分配方法は6月21日以降の送金の有無に関わりなく債権額に応じて配分する」という選択肢を回答した旨報告がなされた。

#### (2) メーリングリストの構築について

大串常務理事より、前回理事会にてIPSAニューズレターを会員に配布すること等を目的としたメーリングリストの構築について承認を頂き、既に構築自体は完了したものの、今のところIPSAから配布するに値する情報を受け取っていないため、今後必要に応じて活用して行く予定である旨報告がなされた。

#### (3) 預金口座の分散について

宇野幹事より、この4月からのペイオフ解禁への対策について説明がなされた。このうち学会の一般会計口座については、特にペイオフ対策をとる必要はないと判断しているものの、別会計である2000万円超の国際交流基金についてはペイオフの対象となり得るため、利子がかからない代わりにペイオフの対象外とされる決済用普通預金口座への移行作業を行いたい旨提案がなされ、承認された。

## 2. 各委員会報告

### (1) 2005年度企画委員会

久米郁男委員長より、2005年度研究会の内容構成に関して以下の通り報告がなされた。

- a) 共通論題・アメリカ政治学会及び韓国政治学会との交流を含めて22件の分科会を設け、さらに10件のポスターセッションを設けた。
- b) 公募企画3件を採用した。
- c) 企画委員会が用意した分科会には18件の応募報告があり、1件を除いて採用した。
- d) ポスターセッションには7件の応募があった。また、計4件の単独応募報告についてはテーマが分散しているためポスターセッションに回って頂き、うち1件が辞退したため、ポスターセッションは計10件となった。
- e) 研究会の全日程を通じて会場の活気を維持確保するため、共通論題を日程の最後に置くことにした。

### (2) 2006年度企画委員会

竹中千春委員長より、IPSA世界大会と同時開催する研究会の具体的企画は引き続き検討中であり、次回理事会で提示したい旨報告がなされた。

### (3) 2005年度年報委員会

小林良彰委員長より、3月9日に年報委員会を開催し、委員執筆分は7本中3本が確定した旨、ならびに公募論文については掲載可とした3本の論文について修正版が提出されており、総じて順調に編集作業が続いている旨報告がなされた。

### (4) 2006年度年報委員会

山口二郎委員長（大串常務理事代読）より、以下の年報委員の名簿が示され、特集論文は10本を予定している旨報告がなされた。2006年度年報委員は山口委員長以下、飯田文雄、岩本美砂子、梅森直之、遠藤誠治、小川有美、金井利之、新川敏光、杉田敦、空井護、田中愛治、松岡泰、宮本太郎（五十音順）の各氏。

### (5) 2007年度年報委員会

李鍾元委員長（大串常務理事代読）より、まだ具体的な委員選任・編集作業には入っていない旨

報告がなされた。

### (6) 2005年度文献委員会

杉本稔委員長より、今年1月末の段階で203名の会員から376本の業績について報告があり、これらを整理したうえで7月を目処に学界展望の原稿を作成したい旨報告がなされた。

### (7) 2006年度文献委員会

河田潤一委員長より以下の委員会の名簿が示され、2005年度の路線を踏襲しつつ来年夏を目処に活動して行く旨報告がなされた。2006年度文献委員は河田委員長以下、伊藤光利、北山俊哉、定形衛、玉田芳史、津田由美子、林忠行、平井一臣、牧野雅彦、松下洋、松田宏一郎、山本啓、吉野孝（五十音順）の各氏。

### (8) 国際交流委員会

千葉眞委員長（渡辺理事長代読）より、2005年度研究会におけるアメリカ政治学会との交流セッションは「アカウントビリティ研究の理論と実証」というテーマを設定し、報告者・討論者と調整中である旨、ならびに韓国政治学会との交流セッションの内容については現在検討中である旨報告がなされた。

### (9) 選挙管理委員会

谷聖美委員長より、岡山大学と神戸大学から以下の委員を選任し、具体的には来る4月から始動する旨、ならびに学会事務センター問題のありを受けて理事選挙人名簿の確定に遅れが生じる可能性がある旨報告がなされた。選挙管理委員は谷委員長以下、伊藤光利、小田川大典、河原祐馬、木村幹、品田裕、前田浩、松並潤（五十音順）の各氏。

### (10) 2005年度研究会開催校（明治大学）

牛山久仁彦会員（中邨章理事の代理）より、明治大学における準備状況として、会場についてはリパティータワーを使用、480名収容のホールをはじめ、350人収容教室2室、140名収容教室8室・控室・理事会用会議室・懇親会場などを既に確保しており、全てプレゼンテーション用設備を

完備している旨説明がなされた。

### 3. 学会事務委託先について

大串常務理事より、事務局による学会事務委託先の選定及び契約内容の交渉に関する経緯として、まず前回理事会の段階で4社に絞られた候補をさらに比較検討した結果、最終的に㈱アドスリーに絞って交渉を進め、従来学会事務センターに委託していた内容を基本的に踏襲するという趣旨で契約書・見積書・覚書の案を作成した旨報告がなされた。同時に、振込口座については現在の日本政治学会名義の郵便口座を維持し、口座印は事務局が管理し、㈱アドスリーには10万円程度の小口の現金の管理を任せるとどめることによって、学会が将来にわたって大きな財政的損失を被る可能性を排除した旨説明がなされた。また、2005年度の第1回会費請求は事務局が行うことも報告された。

以上の報告をうけて、渡辺理事長より㈱アドスリーと会員事務委託契約を締結したい旨諮られ、承認された。

### 4. 学会事務委託に伴う移行措置について

渡辺理事長より、従来会費滞納者の除名処分については毎年3月末を基準に行っていたものの、今年は学会事務委託に伴う移行作業の関係上、4月中旬以降滞納者を確定することにしたい旨諮られ、承認された。

### 5. 『年報政治学』の出版元について

渡辺理事長より、従来の経費を据え置いたまま『年報政治学』を年2回刊行することを目指して岩波書店と交渉を行い、その後岩波書店から提出された提案に関して各理事から意見を募った結果、岩波書店との従来の契約を維持することに対して消極的な意見が大勢を占めた旨報告がなされた。また大串常務理事より、政治学系研究書の出版実績を有する木鐸社から見積をとったところ、従来よりも少ない経費で年2回の刊行が十分可能である旨説明がなされた。以上を踏まえて渡辺理事長より、岩波書店と契約を継続することは会員に対して正当化出来ないため、今後は木鐸社と契約することにしたい旨諮られ、承認された。

### 6. 2004年度決算及び2005年度予算について

まず決算について宇野幹事より、2004年度決算は学会事務センター破産問題をうけて例年とは相当異なる状況の下で確定せざるを得ず、特に以下の点が今年度決算における特徴と問題点である旨説明がなされた。

- a) 一般会計の予算額は、昨年10月1日の理事会と2日の総会で承認された補正予算である。
- b) 学会事務センター末期の収支については、事務センター破綻後、収支内訳が明らかにされなかったため、学会事務センターから返金された金額や会員データにおける入金記録等から会費収入を推定せざるを得なかった。前大阪市大事務局でも現事務局でも洗い出し作業を行ったが、その結果、推定会費収入が不自然に半端な金額になってしまった。しかし学会事務センター末期の収支の詳細はブラックボックスであって、最善を尽くしたがこれ以上調べようがないので、この推定額をもって会費収入とした。
- c) 学会事務センター破産に伴う混乱で会費を2度納入した会員については、2度目の会費を2005年度会費の前受金として処理したため、前受金の総額が例年よりも多くなった。
- d) 学会事務センター破産に伴い、事務局による学会事務作業が大幅に増加することが予想されたため、昨年10月の理事会で予備費の一部を人件費に充当することが認められたが、事務局の自助努力によって人件費は大幅に節約できた。また、事務局経費の人件費は渡しきりとして処理するのが慣行であったが、透明性を高めるため実際に使用した金額によって決算額とした。

以上の決算案について、江上能義監事・福永文夫監事より、本日午前、帳簿・領収書・通帳等を照合し、慎重に監査を行った結果、会計事務は適正に行われており決算は真正であることを確認した旨報告がなされた。

ついで、渡辺理事長より本決算の承認の可否が諮られ、原案通り承認された。

次に予算案について宇野幹事より、予算案が示され、以下の説明がなされた。

- a) 収入は繰越金・会費収入見込（事務局マニュアルの計算式による）・著作権センターからの雑収入（前年度実績）の総和である。
- b) 年報委員会の経費は、年報の年2回出版体制への移行に伴い、昨年2.5倍を計上した。
- c) 企画委員会の経費は、来年度の研究会が定期的に早まることをうけ、半年分繰り上げて1.5倍を計上した。
- d) 事務局経費は、2005年度第1回の会費請求を事務局で行うため10万円多く計上した。
- e) 次期の名簿作成は2006年度となるが、2005年度中に事前調査を行うため、25万円を計上した。
- f) 国際交流基金への積み立ては行わず、また国際交流プログラム助成金は国際交流基金会計に移した。

以上の予算案について、渡辺理事長より承認の可否が諮られ、原案通り承認された。

## 7. 年報政治学の編集体制と方針について

渡辺理事長及び大串常務理事より、年2回刊行に対応した新たな編集体制と方針について事務局案が示され、審議の結果、以下の点が承認された。

- a) 2005年度から年報を年に2回刊行する。ただし、2005年度と2006年度に関しては、様々な移行措置を採る。
- b) 年2回刊行になっても『年報政治学』の名称を維持する。同一年度内に刊行される各号を、第1号、第2号として区別する。
- c) 2007年度以降、第1号は6月、第2号は12月に刊行する。2005年度と2006年度については過渡期としてこれによらず、2005年度については11月と3月、2006年度については10月と3月に刊行する。
- d) 1号ごとに編集担当者を理事会で任命し、各号ごとに一つの特集テーマを設定する。ただし、2005年度に関しては、同一の年報委員長が2号とも担当する。

- e) 各号には、特集論文を概ね6本程度、公募による独立論文を6本程度掲載する。各論文は図表のスペースを含めて2万字を限度とする。ただし2005年度と2006年度の年報の論文数は必ずしもこの規定によらない。
- f) 各号の編集担当者は、特集のテーマが決まったらなるべく早くニューズレターとホームページで会員に知らせ、広く会員から論文を公募する。ただし掲載の可否は独立論文と同様に査読して判断する。会員からの応募論文によって特集論文の数が予定よりも増えることは差し支えない。ただしその場合でも、論文の総数は概ね12本を超えないこととする。
- g) 規約・規程は第1号に掲載し、学界展望と総会・研究会日程は第2号に掲載する。ただし2005年度と2006年度の学界展望は第1号に掲載する。
- h) 2005年度以降、年報は横書きとし、英文サマリーを掲載する。
- i) 新年報の装丁、公募論文の査読体制、外国語論文の掲載の可否、大型書評の掲載の可否については引き続き検討する。

また、2006年度第2号の年報委員長として小野耕二理事を選任した。

## 8. 入会承認について

以下13名の各氏を新入会員として承認した（事務局受付順、敬称略）

益田直子・庄司香・田中拓道・河越真帆・西野純也・中神由美子・五百籬頭薫・大久保健晴・滝田豪・池田有日子・堀金由美・Prum Virak・中村勝巳

## 9. 次回理事会について

渡辺理事長より、次回理事会は2005年6月18日（土）、大阪大学豊中キャンパスにて開催したい旨諮られ、承認された。

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 日本政治学会2005年度予算（案）

### 一般会計

[収入]	費目	予算額
1	前年度繰越金	2,845,632
2	会費収入	11,237,450
3	雑収入	72,000
	収入合計	14,155,082

### [支出]

1	研究会開催費	1,350,000
	A 研究会準備金	1,300,000
	B 報告者礼金	50,000
2	委員会経費	1,135,000
	A 年報委員会	525,000
	B 企画委員会	315,000
	C 文献委員会	190,000
	D 国際交流委員会	70,000
	E 選挙管理委員会	35,000
3	理事会経費	20,000
4	IPSA学会分担金	400,000
5	事務局経費	610,000
	A 理事長通信費	100,000
	B 運営費	60,000
	C 人件費	200,000
	D 経常費	250,000
6	アドスリー委託経費	1,450,000
	A 業務委託費	1,200,000
	B 事務通信費	250,000
7	名簿作成積立金	800,000
8	選挙管理費	400,000
9	会報発行費	550,000
10	年報費	4,200,000
11	予備費	1,000,000
12	次年度繰越金	2,240,082
	支出合計	14,155,082

差引 0

### 別会計

	費目	予算額
1 名簿作成積立金		
収入	1 前年度繰越金	801,078
	2 本年度積立金	800,000
	3 利息	16
	収入合計	1,601,094
支出	1 名簿作成費用	0
	2 事前調査費	250,000
	3 予備費	1,351,094
	支出合計	1,601,094
	差引	0

### 2 国際交流基金

収入	1 前年度繰越金	20,253,473
	2 本年度積立金	0
	3 利息	202
	収入合計	20,253,675
支出	1 執行計画	3,000,000
	2 国際交流プログラム助成費	300,000
	3 予備費	1,000,000
	4 次年度繰越金	15,953,675
	支出合計	20,253,675
	差引	0

# 学 会 ニ ュ ー ス

## 日本政治学会2004年度決算

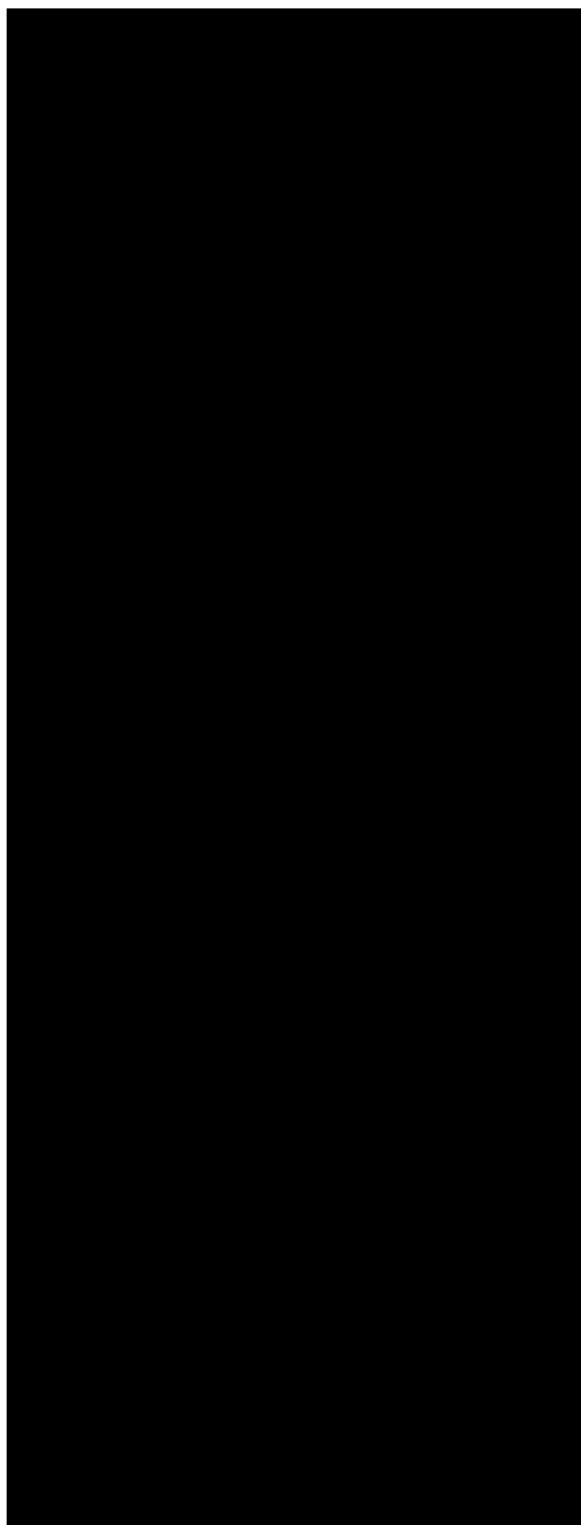
[収入]		予算額	前期執行額	後期執行額	通年執行額	残高	
1	前年度繰越金	4,636,402	4,636,402	0	4,636,402	0	確定
2	会費収入	11,000,000	9,299,750	1,466,660	10,758,910	233,590	確定
3	雑収入	3,000	12	72,012	72,024	-69,024	確定
収入合計		15,639,402	13,936,164	1,538,672	15,474,836	164,566	

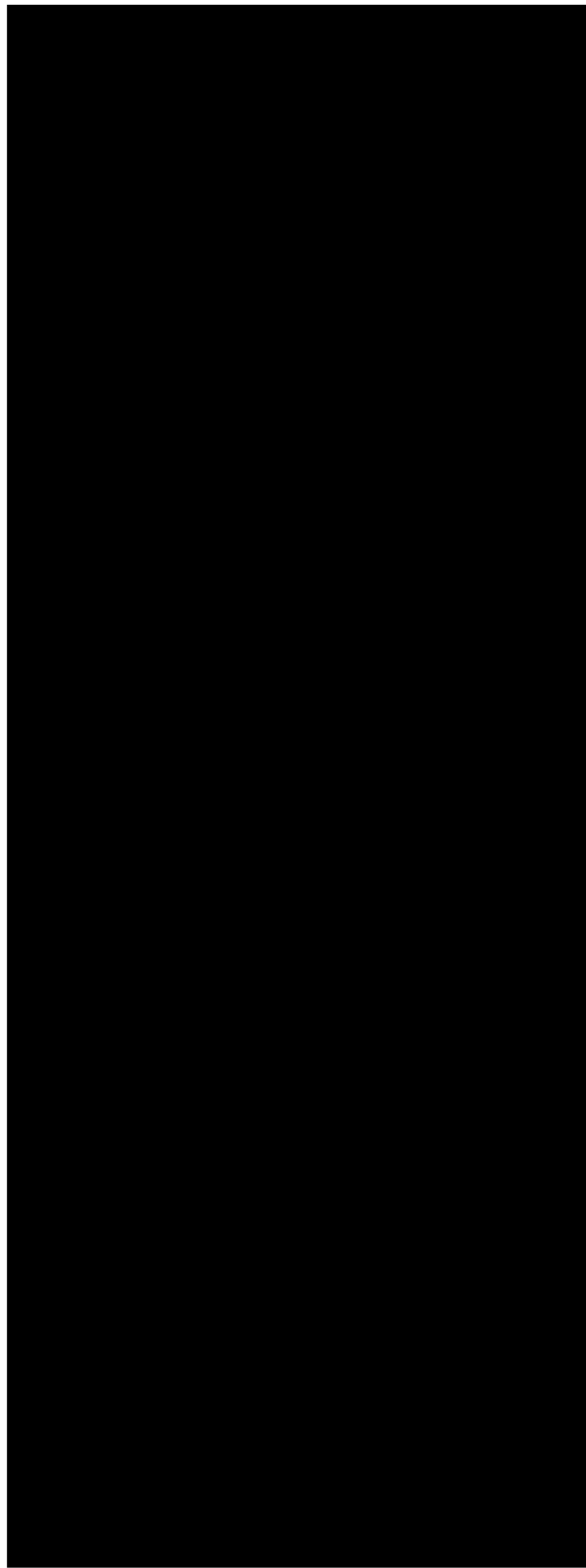
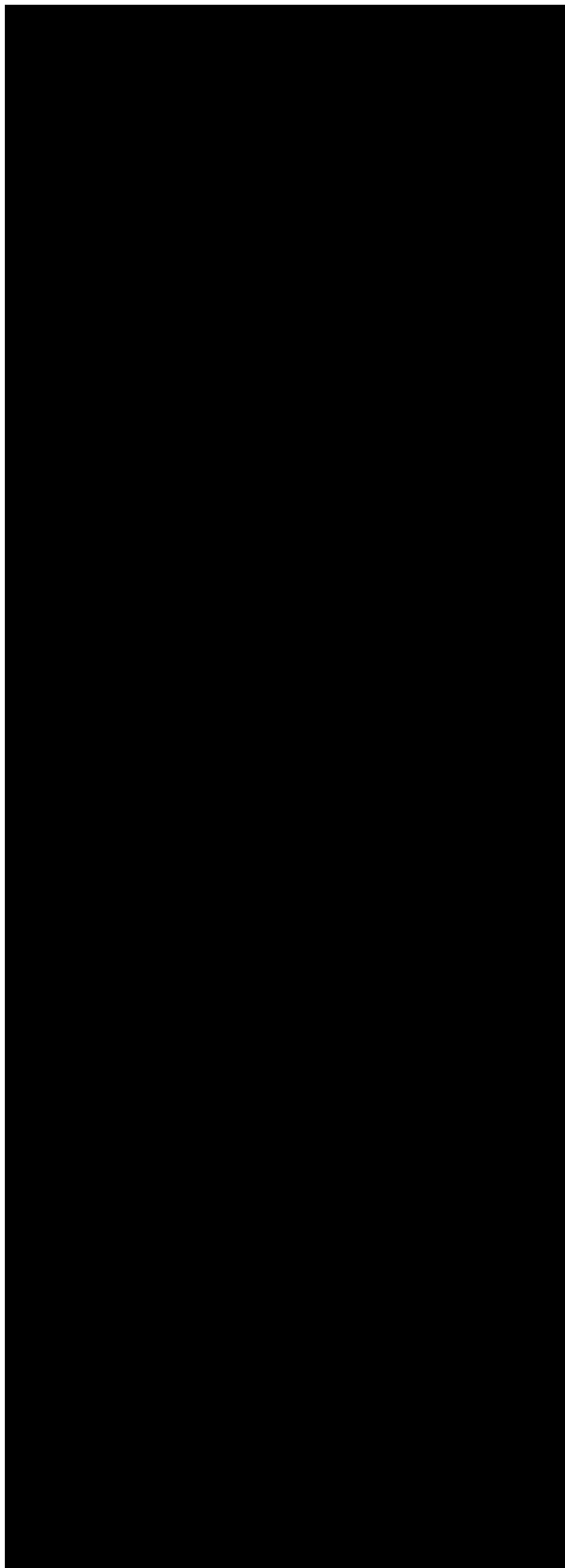
[支出]		予算額	前期執行額	後期執行額	通年執行額	残高	
1	研究会開催費	1,350,000	1,350,000	0	1,350,000	0	確定
	A 研究会準備金	1,300,000	1,300,000	0	1,300,000	0	
	B 報告者礼金	50,000	50,000	0	50,000	0	
2	委員会経費	780,000	390,000	390,000	780,000	0	確定
	A 年報委員会	210,000	105,000	105,000	210,000	0	
	B 企画委員会	210,000	105,000	105,000	210,000	0	
	C 文献委員会	190,000	95,000	95,000	190,000	0	
	D 国際交流委員会	70,000	35,000	35,000	70,000	0	
	E 学会機関誌改革検討委員会	100,000	50,000	50,000	100,000	0	
3	理事会経費	20,000	4,965	3,873	8,838	11,162	確定
4	IPSA学会分担金	338,500	338,500	0	338,500	0	確定
5	事務局経費	610,000	104,456	296,145	400,601	209,399	確定
	A 理事長通信費	50,000	0	0	0	50,000	
	B 運営費	60,000	30,000	30,000	60,000	0	
	C 人件費	200,000	0	53,900	53,900	146,100	
	D 経常費	150,000	74,456	61,418	135,874	14,126	
	E 事務局移転費	150,000	0	150,827	150,827	-827	
6	学会事務センター委託経費	569,519	569,519	0	569,519	0	確定
	A 業務委託費	377,000	377,000	0	377,000	0	
	B 事務通信費	192,519	192,519	0	192,519	0	
7	名簿作成積立金	0	0	0	0	0	確定
8	国際交流基金への積立金	0	0	0	0	0	確定
9	国際交流プログラム助成費	0	0	0	0	0	確定
10	会報発行費	657,880	307,880	337,950	645,830	12,050	確定
11	年報費	5,250,000	0	4,777,300	4,777,300	472,700	確定
12	ホームページ管理費	30,000	0	0	0	30,000	確定
13	学会事務センター倒産による損失	3,730,516	3,730,516	0	3,730,516	0	確定
14	予備費	1,000,000	28,100	0	28,100	971,900	確定
	小計	14,336,415	6,823,936	5,805,268	12,629,204	1,707,211	確定
14	次年度繰越金	1,302,987	0	2,845,632	2,845,632	-1,542,645	確定
支出合計		15,639,402	6,823,936	8,650,900	15,474,836	164,566	確定

前受金 100,000

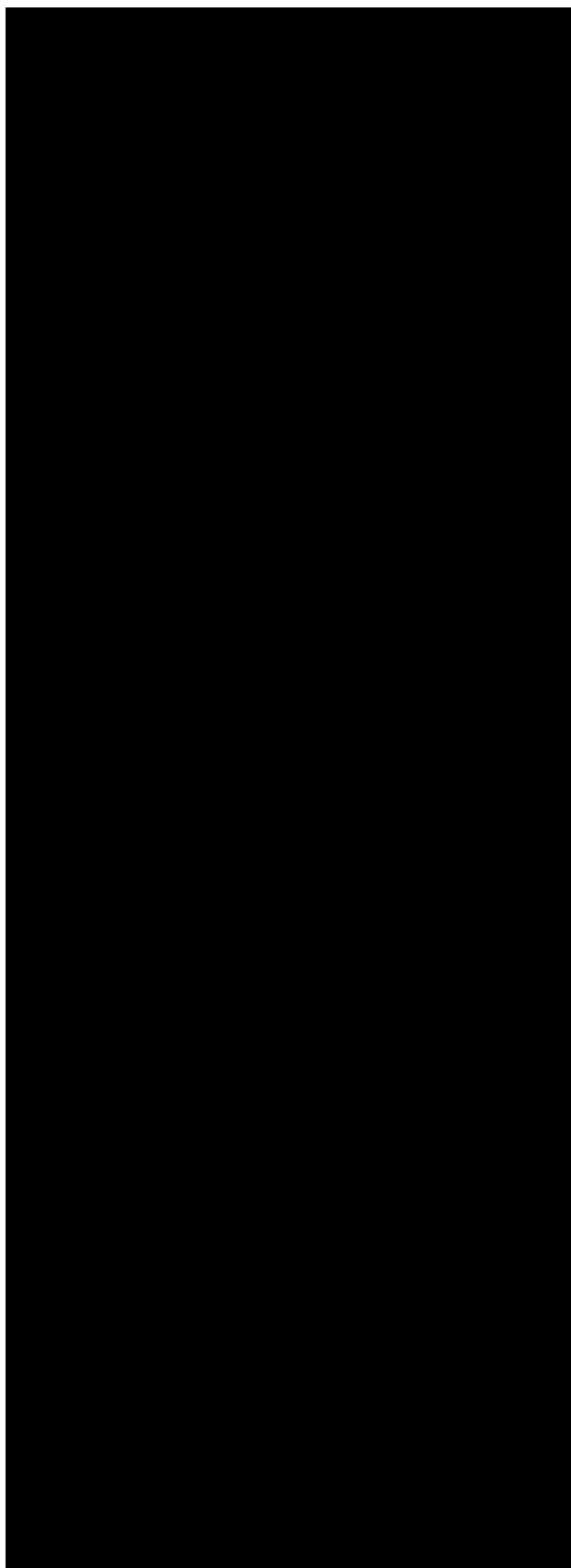
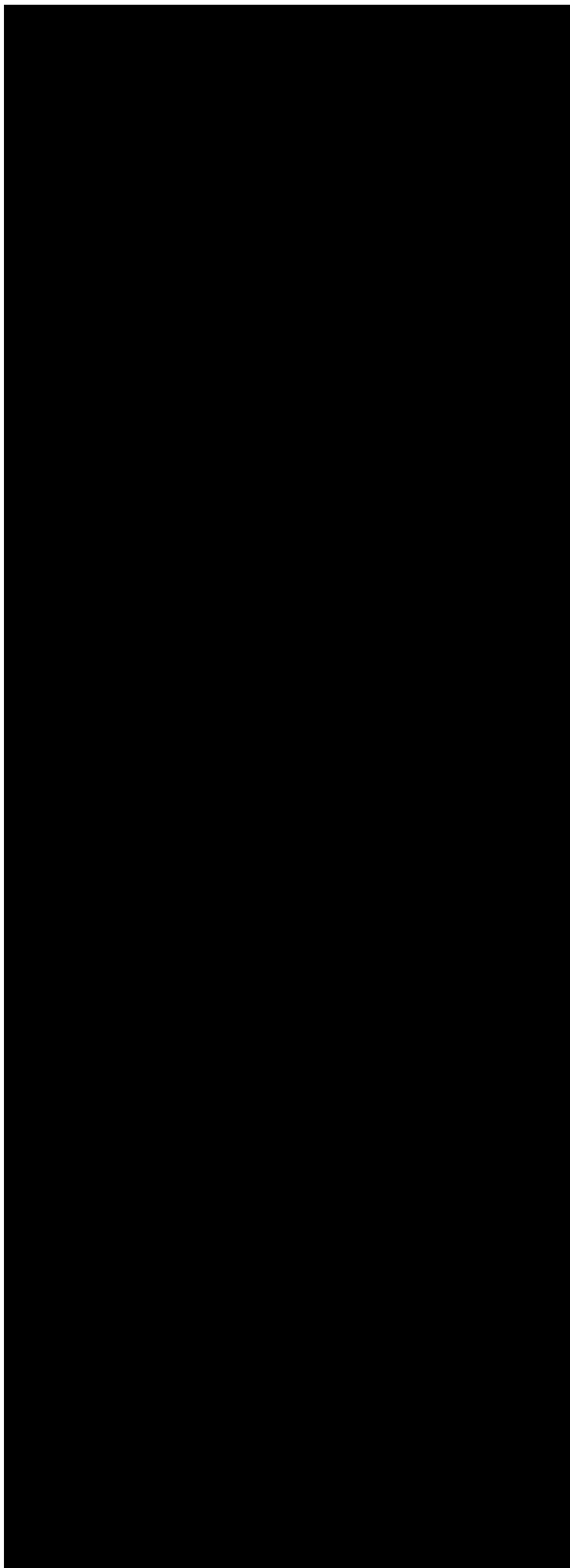
内訳 前受金 92,500  
振込人不明金 7,500

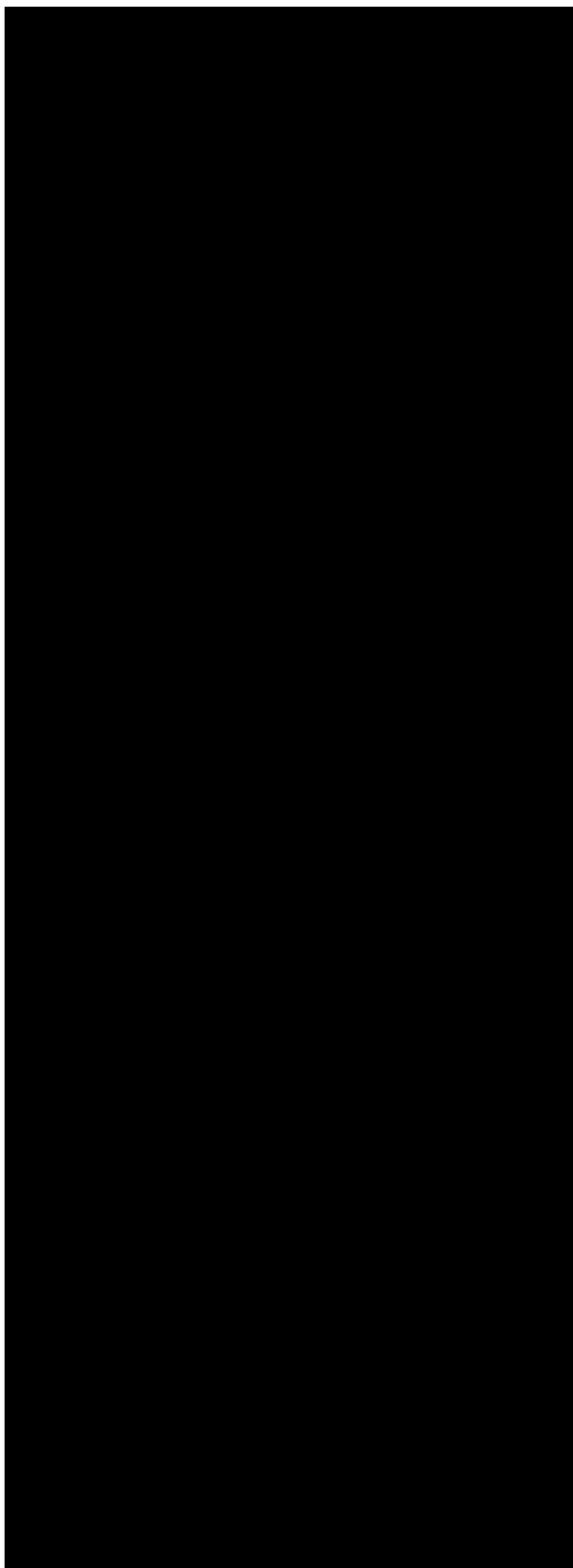
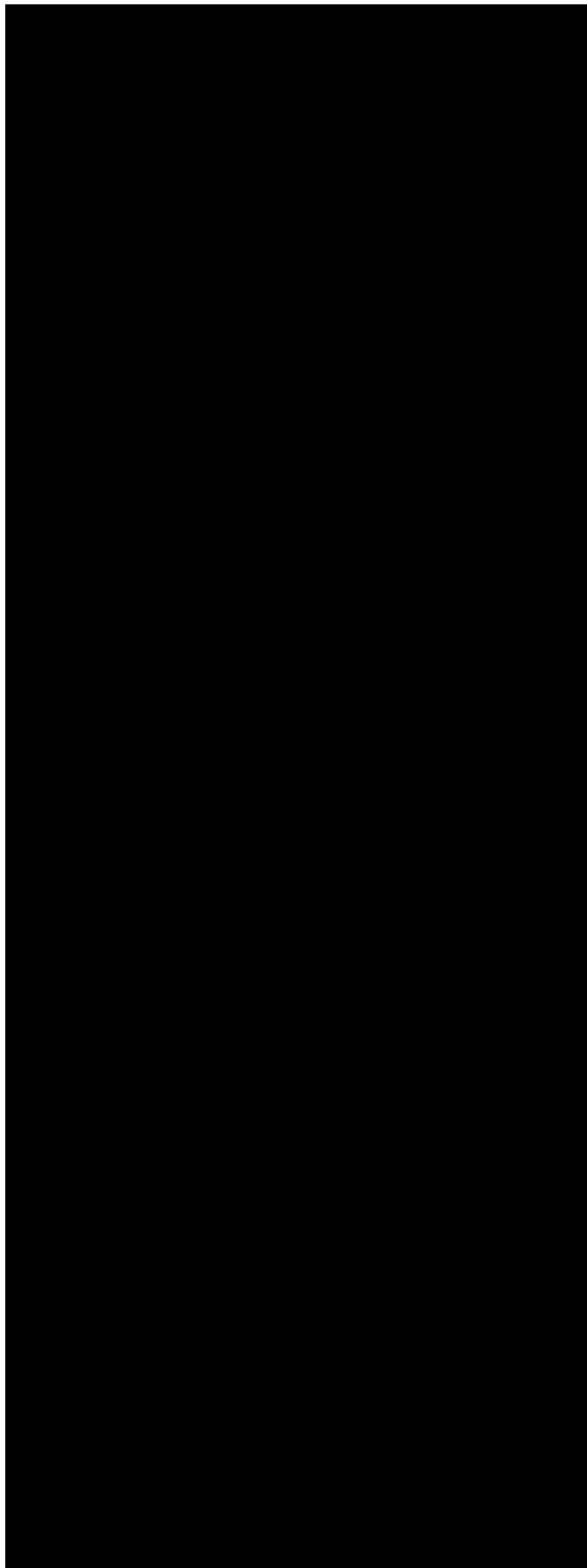
会員の異動

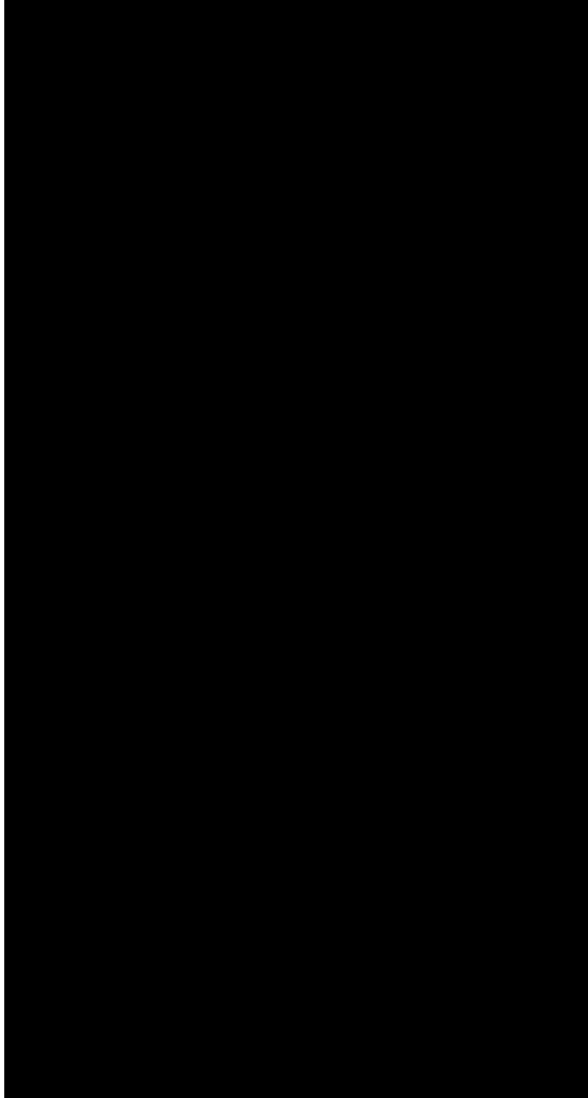
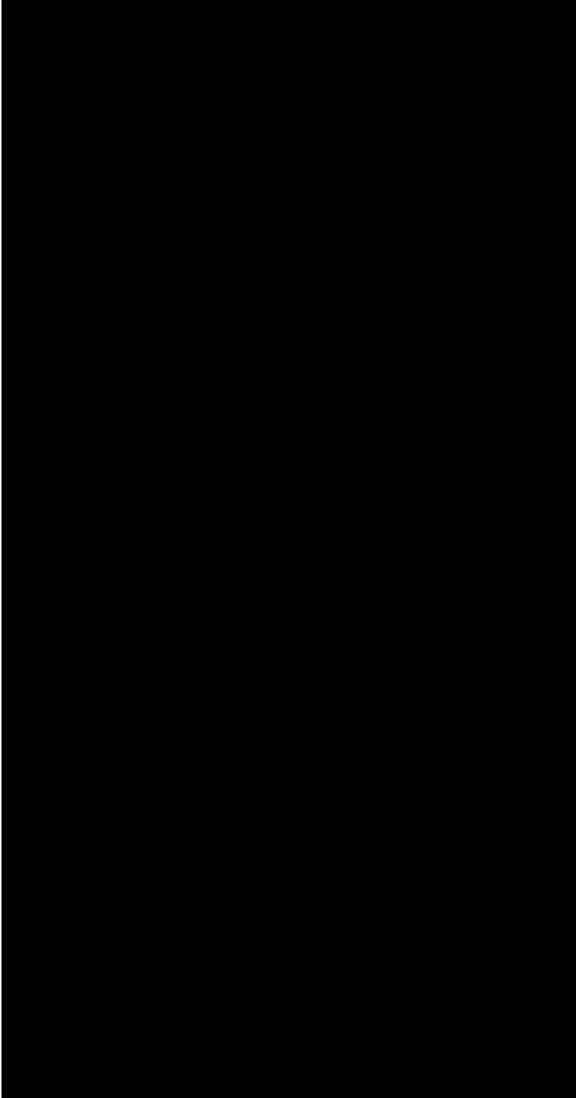












## 事 務 局 よ り

### 会費納入についてのお願い

年会費をまだ納めて頂いていない会員の方が若干おおいでになります。郵便振替をご利用頂き、下記の学会名義の郵便振替口座にご納入頂くようお願い申し上げます。一般会員は7,500円、院生会員は5,000円です。

口座番号 00120-2-500664  
口座名称 日本政治学会

### 学会事務委託のお知らせ

理事長の3月30日付け書簡で会員の皆様にお知らせしたように、このたび(株)アドスリーに学会事務の一部を委託いたしました。アドスリーは会費請求、会員データの更新、年報・ニュースレターの発送等を請け負います。つきましては、住所変更等の届け出および会費に関するお問い合わせは、(株)アドスリーのほうにお願いします。

〒164-0003 東京都中野区東中野4-27-37  
(株)アドスリー 日本政治学会担当係宛  
TEL: 03-5925-2840 FAX: 03-5925-2913  
E-mail [jpsa@adthree.com](mailto:jpsa@adthree.com)  
担当者 石井  
営業時間 土、日曜、祭日を除く毎日  
9:30~18:30  
入会・退会の申し込みと、アドスリーが担当す

### 本号の目次

1. 2005年度研究会企画について ..... 1
2. 2005年度日本政治学会研究会プログラム ..... 2
3. 学会事務委託のお知らせ ..... 5
4. 『年報政治学』年2回刊行化および2005年度第2号論文公募のお知らせ ..... 5
5. 『年報政治学』2006年度第1号論文公募について ..... 6
6. 2006年世界政治学会・福岡大会へのご協力のお願い ..... 6
7. 日本政治学会2004年度第6・7回理事会記録 ..... 7
8. 日本政治学会2005年度予算案 ..... 13
9. 日本政治学会2004年度決算 ..... 14
10. 会員の異動 ..... 15
11. 事務局より(会費納入についてのお願い・訃報・訂正) ..... 20

る事項以外の諸々のお問い合わせは、これまで通り学会事務局のほうにお願いします。

### 訂 正

『年報政治学』2004の学界展望・政治思想(日本・東アジア)179頁におきまして訂正事項がありましたので、お知らせ致します。

訂正箇所: 179頁下段末尾

(誤) 南浩一 → (正) 小南浩一

以上、誤記による失礼をお詫び申し上げますと同時に、修正のほど宜しくお願い申し上げます。(2004年度文献委員会)

### 訃 報

下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

神川信彦氏 東京都立大学名誉教授 ヨーロッパ政治史 1924年生

柳 眞弘氏 国士舘大学教授 憲法・国法学 1954年生

### お詫び

通常、毎年上半期のニュースレターは5月末に発行しておりますが、事情により6月にずれ込みましたことをお詫び申し上げます。

2005年6月15日発行

発行 日本政治学会事務局

大 串 和 雄

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学法学部研究室内

FAX 03-3814-3210

E-mail [jpsa@j.u-tokyo.ac.jp](mailto:jpsa@j.u-tokyo.ac.jp)

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpsa2/>

(株)アドスリー 日本政治学会担当(退会・住所変更・会費)

〒164-0003 東京都中野区東中野4-27-37

TEL: 03-5925-2840

FAX: 03-5925-2913

E-mail [jpsa@adthree.com](mailto:jpsa@adthree.com)

印 刷 よしみ工産(株)